巻頭言
foreword

# 診療放射線技師の学生教育と生涯学習

上田　克彦
公益社団法人日本診療放射線技師会　会長

2023年の新春を迎え，謹んで新年の賀詞を申し上げます．

平素は本会事業にご協力いただき，心から感謝申し上げます．本年も昨年同様にご支援，ご協力を賜りますようお願い申し上げます．

昨年（2022年）は，各地で告示研修を受講され，静脈路確保などの新しい役割を実施していただいておりますことに感謝を申し上げます．

さて，診療放射線技師の育成は，教育施設における学習から免許取得後の生涯教育まで，連携した流れが必要であることを認識いただいているかと存じます．特に臨床実習においては，免許取得後に適切な業務への導入ができるような体験型実習が求められており，臨床実習を担う皆さまには指導者研修を受けるなどして，日頃から熱心に取り組んでいただいています．本会としても，より良い実習体制の構築に協力を惜しまないところです．全国診療放射線技師教育施設協議会におかれましては，昨年（2022年）12月から，従来の持ち回りの会長制度から固定の会長制度に変更されました．この機会に本会との連携をより密にすることで，若い世代の診療放射線技師の皆さまに有益となる事業を提供できるよう検討してまいりたいと存じます．

2025年2月には，改正診療放射線技師法に適合した診療放射線技師国家試験が実施されます．2021年度入学の学生からは新しいカリキュラムで国家試験問題が出題されるために，それ以前のカリキュラムで教育を受けている学生については告示研修の実施に対応する必要があります．その具体的な方法についても協議会に提案する準備を整えています．

一方，海外に目を向けますと，米国では放射線技師会に当たるAmerican Society of Radiologic Technologists（ASRT）と別団体であるThe American Registry of Radiologic Technologists（ARRT）がコンテンツの提供を行っており，各団体の特長を生かした役割で連携がなされています．日本においても，放射線関連団体それぞれの役割を意識した事業展開の可能性を検討したいと考えています．

また日本以外の多くの国には免許更新制度があるため，必然的に生涯にわたり職能団体や関係学会が主催する研修を受講し単位認定を受ける義務があります．その一環として，アジア各国が連携した国際的な共通学習制度が作られており，日本にもその制度への協力が期待されています．

本会では，この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響で国際関連事業の展開を控えておりましたが，今後はそれを復活することにより，日本の優れた診療放射線技術と社会活動を役立てていただけるように展開していきたいと存じます．

ところで，世界最高峰の学会と言っても過言ではない北米放射線学会：Radiological Society of North America（RSNA）においても上記のASRTやARRTだけではなく，世界放射線技師会：International Society of Radiographers and Radiological Technologists（ISRRT）のブースも設けられている他，診療放射線技師に関係した企画や学生向け企画など多様な参加者に対応したプログラムが設けられています．医師や企業だけではなく多職種間連携によって放射線医療を発展させる強い意気込みが見て取れます．

日本では，本年（2023年）4月に東京で開催される医学会総会において，本会，日本放射線技術学会，日本医学放射線学会，日本放射線科専門医会・医会，日本ラジオロジー協会，日本インターベンショナルラジオロジー学会，日本磁気共鳴医学会，日本放射線腫瘍学会が近接して一般参加者向けの展示を行います．ここでは「放射線診療の役割と性腺防護のための鉛シールドの使用を廃止していく活動」などをアピールする予定であり，米国の活動に負けない連携を図って今後につなげていきたいと思います．

今年の基本姿勢として，アフターコロナに向けた社会環境に適応した事業展開を念頭にして，診療放射線技師の役割を十分発揮できる機会を設けていきたいと存じます．

本年が皆さまにとって良い年になりますことを祈念して，新年のごあいさつとさせていただきます．